

令和3年度 第6回 政策決定会議 会議録①

-
- ◆開催日時：令和3年10月29日（金） 9：00～9：25
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、戎井副市長、大下教育長
-

◆審議事項

- ・ 広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編について
・・・・・・・・市街地整備課⇒承認
-

◆審議概要

『広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編について』

〈説明者〉松下まちづくり推進部長、高橋市街地整備課長、笠谷担当主幹

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案どおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉海から山までの都市構造を新たに打ち出していくということで、総合計画ともかかわってくる。当該事業は、これからは泉州山手線建設にともなうまちづくりという意味も大きく、各事業が相互に連携しているので、結果的に全体が連携していることを明確にすること。交通まちづくりアクションプランについても策定から年数が経過しているので、更新していくように。総合計画の中で明確に位置付けしていく必要がある。採算面についてはよく検討し、5年後の検証ルールを文書化して引き継げるようにしておくこと。工業拠点や生活拠点やゾーニングについては、産業や総合計画所管課等とも議論し整理していくように。

〈戎井副市長〉まずは5年の実証運行期間中は、適宜状況を確認し、黒字化に向け、柔軟に対応できるようにしておくこと。また、市としても経費の積算を行い、根拠を持った状態で事業者と協議し、適切な費用負担とすること。契約の方法はどのようになるのか。

〈市街地整備課長〉入札や随意契約といったものではなく、すでに行っている事業を拡大するというものである。

〈戎井副市長〉日中には観光ルートを回るなどバス資源を活用できないか。

〈市街地整備課長〉今回の場合は路線バスなので、ルート以外を走るには新たな許可が必要になる。新たにルート設定をするということになると、ガソリン代や人件費の問題も出てくるため、今回の話とは別の話になってくる。また、本市を走っていない時間帯は他の市町のルートを走っていることもあり、バスが余っているということもない。

〈教育長〉本件に関わらず、高齢化の進展に伴い、今後市域全体の交通の便についての検討が必

要である。

〈市長〉和泉中央ルートについては、10年で黒字化を見込む根拠を整理しておくこと。10年は民間の感覚でいえば長いため、数年で黒字化させる気持ちで動きつつ、まちづくりが絡むため時間がかかることを説明できるようにしておくこと。モビリティポートを活用できるのは路線バスだけではないので、民間の事業者が積極的に活用できるよう検討されたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案どおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を、原案のとおり承認する。

3年9月10日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 まちづくり推進 部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	R4 までに策定する次期交通まちづくりアクションプランの方向性に沿った公共交通ネットワークの再編として、路線バス福田線のルート変更と道の駅・愛彩ランド～和泉中央駅間についての道路運送法第 21 条による実証運行ルートの新設
説明者	まちづくり推進部市街地整備課長 高橋 正悟 " 市街地整備課 笠谷 陽介
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和3年度 第6回会議
付議事項	広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編

★取組の目的

対象	丘陵地区(ゆめみヶ丘岸和田～道の駅愛彩ランド)、山直北地区の地域拠点
どのような状態を目指す	R4までに策定する次期交通まちづくりアクションプランの方向性に沿った公共交通ネットワークの再編

★総合計画上の位置付け

106020106	基本目標	I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(2)人や物が盛んに市内を行き交っている
	目指す成果	①市内の移動がスムーズにできている
	行政の役割	カ 公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進める

★現状と課題

<p>丘陵地区で企業誘致が進み、今年度ゆめみヶ丘岸和田のまちびらきが行われ、山直北地区の新たな拠点づくりが進む中、次期交通まちづくりアクションプランの計画に合わせ、道の駅・愛彩ランドを中心拠点とした「にぎわい造り」のため、OSPF関連事業スマートシティーの取組、その他公民連携の取組とともに既存の路線バス網の再編を行う。</p>
--

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
路線バス福田線のゆめみヶ丘岸和田を経由するルート変更				5,300	3,289	2,106	986	0	
道の駅・愛彩ランド～山直北地区～和泉中央への路線バス実証運行ルートの設置				22,500	45,800	37,600	29,400	21,200	
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源				27,800	49,089	39,706	30,386	21,200
	その他								
事業費			計	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
			168,181	27,800	49,089	39,706	30,386	21,200	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
有	無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R1年度	R2年度	R3年度	目標値				
					R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。